

# やる気発生装置

## 大学入試の変容と「学力」社会の予感

年度末という季節柄でしょうか、教育関係でも様々なニュースが入ってきます。そのうちの1つ、大学入試のほうで、きのう注目の動きがありました。総合型選抜や学校推薦など、いわゆる「年内受験」と呼ばれるタイプの大学入試において、「面接」を必須とする方向で文科省が検討しているというのです。もともと総合型選抜では面接やプレゼンがあるところが大半ですが、例えばテストによる合否判定を長年続けてきた京都産業大や龍谷大の公募推薦のような入試に対しては、昨年に続いての制約が加わる形になりそうです。ことの是非はともかく、来年春入学の入試について変更を迫ることが、本番まで残り9ヶ月もない今になってまだ検討段階のまま出てきているというのがあきれた話です。大学側としてはすでに来年度の入試の枠組みは決めて会場なども押さえてある時期ですから、今さら急なルール変更があっても、実態は変えずに形だけ整えるような対応になるとは思いますが、そういうことに振り回される受験生たちが気の毒だとしか言えません。

高校の授業を邪魔しないために、学力をみる入試はできるだけ年明けの遅い時期に、年内入試をするなら学力試験以外の方法で、というのが文科省の方針のようですが、学力以外のものなら早めの日程でもいいのか、総合型選抜のための資料作りやプレゼンの準備をするのが高校の授業に影響しないのかという疑問は残ります。一方そうした流れのなかで、社会の側が「学力」を求める方向性は確かなものがあるようです。きのう、ある高校の進路の先生とお話ししていたのですが、企業が大卒生を採用するときに出身大学だけでなく「どういう入試方法で入学したのか」を気にする傾向はやはりあるそうですし、大学の方でも、ブランド力のあるところほど「高校が推薦する子をほぼ無条件で合格させる」形の指定校推薦を抑えて学力重視に舵を切りつつあるというお話も聞きました。出身大学名が物を言う「学歴社会」から、現時点でのリアルな力が問われる「学力社会」へと変容しつつあるとも言えます。

AIやIT技術の発達で、数年前と全く違った思考が求められるような時代、受験の一時期の努力だけで一生を乗り越えられる時代ではなくなってきました。それだけに、努力を積み重ねる力、新しいことにも対応できる勉強のスタイルをしっかりと身につける必要を感じます。



昨夜から雨が断続的に降り続く京都。満開が報じられてからわずか1~2日にして、すでに葉桜化してきた木も多く、暖くなるのは嬉しいですが少し寂しい気もしますね。

### 当面の教室予定

**3/31(火)~4/1(水)**

16:00~22:00

**4/2(木)~4/3(金)**

10:00~12:00

16:00~22:00

**4/4(土)**

16:00~22:00

**4/5(日)**

16:00~21:00

※21時以降、教室に生徒が残っていない場合には閉室させていただきます。

※天候や各種感染症の状況等により、変更させて頂く場合があります。